

第6回八幡市まち・ひと・しごと創生検討懇談会会議録（要旨）

○日 時：令和3年11月24日（水） 10：00～12：00

○場 所：八幡市役所 分庁舎2階 会議室A

○傍聴者：なし

1 開会

2 議事（協議・報告）

（1）総合戦略の概要及び効果検証について【資料1】

→事務局から第2期八幡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概略、同戦略と第5次八幡市総合計画との関係性、効果検証にあたり懇談会からいただきたい意見のポイントについて説明。

（2）総合戦略の事業進捗状況について【資料2】

→事務局からプロジェクト毎に事業進捗状況の概略について説明後、意見交換。

◆プロジェクト1 子どもが輝く未来の創生 「やわた子ども未来プロジェクト」

<委員>

KPIに掲げる3歳児健康診査受診率、こんにちは赤ちゃん訪問事業の訪問率について、新型コロナウイルス感染症の影響により実績値が大幅に低下したとのことだが、本当に新型コロナウイルス感染症の影響によるものなのか。市の方から健診や訪問をやめたということはないか。

<事務局>

市が健診や訪問をやめたわけではない。コロナ禍においても継続的に実施したが、他人との接触機会を避ける市民が増加したことにより、大幅に実績値が低下したもの。

<委員>

KPIに掲げる不登校児童生徒出現率について、中学生は0.1%改善しているが、誤差の範囲内と思われる。本KPIの目標達成に向け、例えば、兵庫県において実施されている「トライやる・ウィーク」のような、具体的なアクションを考えていくべきではないか。

<事務局>

本市の不登校児童生徒出現率はもともと全国平均と比べても高い割合で推移している。一足飛びに数値が改善するわけではないが、不登校児童生徒への支援を行う教育支援センターにおいて引き続き数値改善に向けた取組を行っていく。

<委員>

KPIに掲げる保育園待機児童者数について、0人が継続できているのは良いことだが、例えば隣の枚方市では例年待機児童が発生していると聞く。近隣市との比較等を行うことにより、0人を継続していることのPRができればより良いのでは。

<事務局>

0人を継続していることのPRは可能だが、近隣市の状況まで記載することは難しい。

<委員>

KPIに掲げるファミリーサポートセンター登録会員数について、令和2年度実績の426人が良い数値なのか悪い数値なのかわからない。市としてこの数値をどう捉えているか。

<事務局>

戦略策定時の現状値が411人、目標値を435人としていることから、少なくとも目標達成に向け前進しているものと考えている。

<委員>

子育て世帯のサポート状況を測るには、登録会員数だけではなくファミリーサポートセンター事業の利用率等についても把握した方がよいのでは。

<委員>

今年度地方創生推進交付金を充当しているものの中では、スケートボードパーク整備に係る事業費の規模が大きい。整備してすぐに効果検証できるものではないが、今後どのように効果が出てくるのかが楽しみでもある。このように、新しいニーズを取り入れることも大切だろう。

<委員>

スケートボードパーク整備は、東京オリンピック開催前から予定していたのか。

<事務局>

その通り。京田辺市にあるようなスケートボードパーク施設を市内にも整備してほしいとの要望を、市内在住の小学生から受けたことが契機となり、今年度当初から事業着手したもの。利用率が比較的低い男山レクリエーションセンター内のソフトボール場の用地を活用し、年度末までに整備する予定。

<委員>

事務局からの話にあった通り、男山レクリエーションセンターの利用率が低い。せっかく新たな施設を整備するのであれば、スケートボード等の動画配信を行うなど、子どもも含め、利用率の向上に向けたPR・周知を是非実施してほしい。

◆プロジェクト2 健幸都市の創生 「やわたスマートウェルネスシティプロジェクト」

<委員>

基本目標にある健幸クラウドシステムは、京都府が運用しているものか。

<事務局>

本市が参画するSmart Wellness City 首長研究会が、筑波大学等と連携し運用しているもの。本市が保有する国民健康保険等のデータを基に分析を行い、市全体や各地域において抱える健康課題の解決に向けた施策の立案等に活用。

<委員>

基本目標にある健幸クラウドシステムの3指標について、何を表す指標なのかが資料ではわかりにくい。

<事務局>

総合戦略には指標についての説明を注釈にて掲載しており、今後、懇談会に提出する資料にも同様の説明を記載させていただく。

<委員>

地方創生推進交付金活用事業である「やわた未来いきいき健幸プロジェクト」について、同事業で使用している活動量計を保有している人を街中でよく見かけるようになった。事業が着実に市民に浸透しつつあるように感じる。

<委員>

これまでは順調に参加者が増えているとのことだが、数年経過すると飽きてやめてしまう参加者が出てくる可能性がある。一度参加した人に継続的に参加していただけるような仕組みも今後必要になってくるのでは。

<委員>

KPIに掲げる平均寿命と健康寿命の差について、男性が現状値より拡大している。平均寿命の延伸によるものであればまだよいが、健康寿命の短縮によるものであれば対策を講じる必要がある。

<委員>

自治連合会ではフレイル予防教室を実施されているが、そのような取組も市民協働で行う高齢者の健康づくり事業として本資料に掲載してもよいのではないかと。

<委員>

KPIに掲げる市民スポーツ公園の利用者数、運動公園利用者数について、令和2年度実績が大幅に減少しているが、新型コロナウイルス感染症と関係があるのか。

<事務局>

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う緊急事態宣言発令による臨時閉園や、感染拡大期の外出自粛が影響したものと考えている。

<委員>

地方創生推進交付金活用事業である「ウォーキング推進事業」について、イベントの実施やマップの配布が主な事業内容なのか。

<事務局>

イベントの実施もあるが、市職員が中学校区ごとに作成したウォーキングマップ等を基に、自身で歩いてもらうことも重要な要素と考えている。

<委員>

市職員が作成したものを活用するのもよいが、例えば市民が作成したウォーキングマップを対象にコンテストを行い、表彰するなど、新たな取組を実施していくこともこの先大事

ではないか。

<委員>

コンテスト形式もよいが、クラウド上で市民が自由に書き込みできるようなマップを公開し、みんなで新たなウォーキングマップを作成する、といった取組もよいのでは。

◆プロジェクト3 観幸のまちの創生「訪れてよしのやわた魅力向上プロジェクト」

<委員>

これまでの観光施策においては、いかにして観光客に来てもらうか、といった一方向の視点で物事を考えていたように思う。この先、いかにして複数回来訪してもらうかなど、関係人口の創出等に向けた、双方向の視点が必要となってくるのではないかと。例えば、駅前の観光案内所についても、海外におけるインフォメーションセンターを参考にしたり、地元住民と交流ができるスペースを設けるなど、従来型の観光施策にとどまらない工夫が必要となってくるのでは。今回のコロナ危機をきっかけにして、来訪者が体験し、学べるような観光施策が展開できればと考える。

<委員>

2年前に京阪電鉄の八幡市駅が石清水八幡宮駅へと名称を変更されたが、その影響により石清水八幡宮への参拝者が増えるなど、好影響はあったのか。

<委員>

駅の名称変更により、間違いなく知名度は向上。全国から参拝者が来るようになった。そうした影響もあってか、コロナ禍においても参拝者数はそこまで減少していない。

<委員>

特定の土地に何度も訪れたいくなる要因は複数存在するが、中でもその土地の人との出会いが一番重要な要素と個人的には考えている。観光名所の紹介だけでなく、その土地のキーパーソンとなるような人の「顔」が見えるようなPRを加えていくことにより、複数回訪れたいくなる観光まちづくりに繋がるのではないかと。また、観光客を迎える石清水八幡宮駅前についても、玄関口としてしっかり整備するべきと考える。

<委員>

地方創生推進交付金活用事業である「徒然草エッセイ大賞」について、この事業を通じ、何をどうしていくのか。事業開始から5年目を迎えるとのことであり、そろそろ第2、第3の取組についても考えていく必要があるのではないかと。

<事務局>

今年度はまだ不明だが、この間順調に応募数が増加しており、全国各地に加え、海外からも応募がある状況。但し、これから先の展開等については、今後検討していく必要がある。

<委員>

地方創生推進交付金活用事業である「やわたブランド創造事業」について、効果は発現しているのか。

<事務局>

今年度、ブランド名称やロゴマークを決定したところであり、第一弾のブランド産品認定に向けて現在取り組んでいる。効果の発現についてはもう少し先になると考えている。

◆プロジェクト4 みんなで創る多機能な力を有したまちの創生「住んでよしのやわたチャレンジプロジェクト」

<委員>

基本目標及び KPI に掲げる地域で活動する団体や住民が連携するネットワークの設置数について、「わたしたちの談活」プロジェクトによる取組が要因となり目標値を達成したとのことだが、具体的には。

<事務局>

社会福祉協議会と連携し、地域での話し合いの場づくりとして、「わたしたちの談活プロジェクト」を行っている。これからネットワークを増やしていく段階であり、立ち上げを行った団体数を計上している。

<委員>

プロジェクト4については、地域の奉仕者と不可分の関係にあると考えるが、地域の奉仕者たるボランティアの高齢化が進んでいるとのことであった。ボランティア連絡協議会など高齢化が進む団体へ、新たに若者が参加することは難しい。若者、特に学生がボランティアとして参加できる取組への支援等ができれば、若者が積極的に地域の様々な活動に携わる機会を創出することに繋がるのではないかと。

<委員>

ここ2年は中止となっているが、例年実施している水防訓練では、地元の高校生が参加していたほか、各自治会で実施する防災訓練にも参加していた。市で実施する事業についても、高校生など若者が参加できる仕組みを検討してはどうか。こうした取組を継続することは、若者の地域でのネットワークが広がるきっかけにもなり、重要と考える。

<委員>

KPI に掲げる市域就職面接会で就業に至った人数について、もっと PR を強化してはどうか。また、創業支援だけにとどまらず、事業承継も含めた支援が必要と考える。

<委員>

「人と人が支え合う暮らしの絆づくり」へのチャレンジ」の取組としては、今年度4か国語で作成したごみカレンダーが配布された。そうした取組も、可能であれば本資料に掲載してよいのではないかと。

(3) 令和2年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業の効果検証について【資料3・参考資料】

→事務局から参考資料及び資料3により概略を説明後、意見交換。

<委員>

国の交付金については、概ねどれも使途が限定されており、使い勝手が悪いものが多いが、本交付金については、目的に沿ったものであれば使途が限定されておらず、使い道が広い性格を持つ反面、その効果検証は大事と考える。

<委員>

例えばやわたおうえん飲食券事業など、事務費等に想像以上に経費がかかっているのだと感じた。

<事務局>

やわたおうえん飲食券事業の場合、換金業務を外部委託したことにより、事務費がやや高額となった。

<委員>

防災アプリについては、ママ友間でも話題となっていた。雨雲レーダーも活用しており、便利に感じた一方で、導入経費が高いようにも感じた。

<委員>

今後、効率的な事業運営も意識して取り組んでいただきたい。

<委員>

GIGA スクール構想については、整備したタブレット端末をどのように活用していくかが今後の課題ではないか。

<委員>

隣の枚方市では、ほぼ毎日端末を家に持ち帰り活用していると聞くが、八幡市ではほとんどまだそうした活用がされていない。

<事務局>

本市の場合、端末が各家庭のネットワーク環境に接続できるかを確認するべく、1回持ち帰ってもらったところ。各家庭での利用も含めた今後の活用方法については、教育委員会で検討されるものと思われる。

3 その他

→いただいたご意見や評価について、とりまとめのうえ、庁内で共有するとともに、本日の会議内容について、議事録を作成のうえ、市ホームページにて公開を予定している旨説明、了承。

4 閉会